

研究課題 (テーマ)	糖尿病透析患者における食事関連ライフスキル尺度のカットオフ値の検証：セルフケア行動、QOL との関連から		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科成人看護学慢性期講座	講師	濱野 初恵
研究結果の概要			
<p>本研究課題で以下の論文を公表した。</p> <p>糖尿病を有する高齢血液透析患者 140 名を対象に、食事関連ライフスキル (Diet-Related Life Skills Scale : DRLSS) とセルフケア行動および栄養リスクとの関連を検討し、セルフケア不良を予測するカットオフ値の設定を行った。</p> <p>ROC 曲線分析の結果、DRLSS はセルフケア不良の予測において中等度の識別能を示し (AUC = 0.760)、カットオフ値として 116 が抽出された (感度 0.726、特異度 0.723)。また、このカットオフ値は栄養リスク (GNRI) に対しても同様に適用可能であり、妥当性が確認された。</p> <p>カットオフ値に基づく群間比較では、ライフスキルが高い群 (>116) はセルフケア行動が有意に良好であった一方で、中等度以上の栄養リスクの割合が有意に高いという結果が示された。すなわち、セルフケア能力の高さが必ずしも良好な栄養状態に結びつかない可能性が明らかとなった。</p> <p>さらに、重回帰分析の結果、セルフケア行動にはライフスキル ($\beta = 0.53$) が正の関連を示し、抑うつ ($\beta = -0.198$) が負の関連を示す独立した要因として抽出された。</p> <p>以上より、DRLSS は高齢糖尿病透析患者におけるセルフケア不良の予測および支援対象の抽出に有用であるとともに、ライフスキルが高い患者においても潜在的な栄養リスクが存在する可能性が示された。したがって、セルフケア能力の評価に加え、栄養状態を含めた多面的な評価と支援の必要性が示唆された。</p> <p>Hamano., et al. (2026). A diet-related life skills scale predicts self-care and nutritional risk in patients with diabetes undergoing hemodialysis: establishing a clinically relevant cutoff value. Renal Replacement Therapy, https://doi.org/10.1186/s41100-026-00711-5</p> <p>その他：学会発表 3 件</p>			
今後の展開			
投稿した関連論文の査読対応を行い、掲載を目指す。			